

平成26年度

県立水戸第三高等学校自己評価表

目指す学校像		豊かな教養に充ち、心身ともに健やかで主体的に社会に貢献できる人材を育成する学校。						
昨年度の成果と課題		本年度の重点項目		重点目標		達成状況		
<p>1 総合的にみて本校の教育方針は、適切に達成できていると思われるが、さらに規範意識や自律的態度を高める必要がある。</p> <p>2 教職員は自己の使命、責務をよく理解し、その達成に向けて努力している。さらに、学校を一つの組織体とする機能的な運営を目指す必要がある。</p>		・授業の質的向上と家庭学習時間の確保		・授業の重要性を生徒に理解させるとともに、学習内容の定着に結びつく授業の工夫・改善と始業ベルと同時に授業開始の習慣づくりに努める。 ・主体的な学習のために、予習を柱として授業が復習となるような自宅学習の習慣化の指導に努める。		B		
		・進路目標の早期決定と進路実現		・生徒に職業を含めた自己の将来を意識させるとともに進路シラバスを明示し、その実現のための進路選択に繋がる指導に取り組む。 ・個別面談、学年PTA、保護者面談を通して、生徒及び保護者の進路意識の高揚を図る。				
		・基本的な生活習慣の確立と生活態度の涵養		・制服の着こなしを良くし、元気な「あいさつ」を徹底して集団の一員としての生活態度を確立させるとともに、生徒との心の触れあいに努める。 ・学校全体で5S(整理・整頓・清掃・清潔・習慣付け)に取り組み、教育環境の整備に取り組む。				
		・部活動・特別活動の充実		・文武両道の精神のもと、部活・進学の両立を図り、各大会での上位入賞を目指す。 ・ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。				
		・広報活動の推進		・HPや「ほっとご三高」を活用して、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信し、地域住民や保護者の本校に対する理解と関心の高揚に努める。 ・各中学校の説明会に積極的に参加し、広報活動に努める。				
評価項目		具体的目標		具体的方策		評価	総合評価	次年度への主な課題
教科指導		1年については基礎学力の定着をはかり、2、3年は、基礎学力をさらに発展させ、大学入試等自分の目標実現に対応できる応用力・実践力を身につけさせる。		・家庭学習時間を確保させるために週末課題のほか平日にも課題を実施する。また、積極的な授業の取り組み、疑問点の解消、将来の目標を見据えた学習計画の実践をすすめる。 ・早期、SHR、昼休み、放課後等の時間を利用して小テスト、課外授業、質問時間の機会を設け、学力の養成を図る。 ・曜日バランスを考慮し、授業時間を確保する。 ・インタラクティブフォーラムやプリティッシュヒルズでの英語研修など国際理解に関する活動に積極的に参加する。		B	B	・家庭学習時間を確保するための具体的な手立てについて、教務部を中心に各教科・各学年等で協議する。 ・自ら進路を見据えて、自主的計画的に学習に取り組む生徒を育成する。
		自らの目標を立て、目標を達成するために努力する生徒を育成する。		・英検・漢検・家庭技術検定等を実施し、合格者数を伸ばす。 ・声楽・ピアノ・管楽器・日本音楽の各公開講座を実施し、生徒の技術向上と、向上心の育成を図る。 ・学習環境の美化に努め、住み良いホームルームをつくる。		A B B B B		
教科	国語	基礎学力の向上を図る。		・小テストを利用し、基礎学力の定着を図る。 ・理解の不十分な生徒には補習を実施する。		A B	A	・予習・復習・週末課題等を課しながら、より一層の学力向上を目指す。
		家庭学習習慣の定着に努める。		・週末課題を利用し家庭学習の習慣をつける。 ・予習・復習に積極的に取り組ませる。		A B		
		生徒の進路希望に応じ学力の向上を図る。		・課外授業を実施し、学力の向上を図る。 ・授業展開の工夫・充実を図る。		A B		
	地歴公民	生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。		・副教材、プリント学習による積極的な効果的な授業を展開する。 ・長期休業中だけでなく、早朝や休日課外等で基礎学力の充実とともに問題演習に取り組む。		A B	B	・視聴覚教材を購入し、授業内容・方法の多様化を進めるとともに、社会科室にインターネット環境を整え、ICT機器を活用した授業開発を行う。
		生徒の社会認識を深めさせるために、授業の研究と実践に努める。		・新聞、映像教材、インターネット等を積極的に活用する。 ・発問等の工夫により、興味関心を喚起する授業に努める。		B B		
		歴史・社会・文化に関する興味や認識を高めるための工夫する。		・修学旅行の事前学習としては、日本史・地理・現代社会等の授業において沖縄についての学習を行う。		A		
	数学	基礎学力の向上を図る。		・単元テストを実施して生徒の理解度を定期的に把握する。 ・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。		B B	B	・課外の充実(内容と生徒の心構え)を図る。
		家庭学習の定着に努める。 基礎学力があり、数学に対して興味関心の高い生徒に対しては、さらに理解度を高める指導をする。		・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。 ・課外を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。		A B		
	理科	自然科学に対する興味関心を喚起する。		・実験、資料等の活用により授業を展開し、健全な自然観を持たせる。 ・授業時の質問、小テスト等を利用して学習の理解度を確認する。		B A	A	・科目によっては授業時数が足りずに実験が行えなかったため、実験が行えるよう時間をつくる工夫をする。
		基礎学力の定着を図る。		・学習内容の定着のため、放課後質問の時間を設ける。 ・問題集の活用及び課外の実施により、大学受験等に相当する実力養成に努める。		A A		
		生徒の進路希望実現を図る。		・問題集の活用及び課外の実施により、大学受験等に相当する実力養成に努める。		A		
	保健体育	体力の向上(身体能力)を図る。		・体力テストの結果を利用し、基礎体力の向上を図る。		A	A	・各学年の体力テストの結果を元に、体力の向上を図る。 ・副教材の活用を工夫する。
生涯スポーツにつながる、知識や運動の習慣を身に付ける。		・実技テストに加え、ルールテストを行い、それらを利用して競技の特性に触れさせ、積極的に運動に親しむ態度を養う。		B				
心身の健康の保持増進を図る。		・定期考査を実施し、※ヘルスプロモーションの理念を理解させる。(※自らの健康をコントロールし改善できるようにする活動)		A				
芸術	音楽	よい発声法で楽曲のイメージを生かし表現する。		・腹式呼吸、発声法等の基本を身に付けさせる。		A	A	・教材研究をより発展させ興味関心を持たせる工夫をする。
		音楽文化についての理解を深め豊かな表現能力を伸ばす。		・読譜力を身に付けさせ芸術歌曲の歌詞、曲想を理解させ個性豊かな表現が出来るようにする。		A		
		芸術活動を通して豊かな情操を養う。		・楽器(ギター・リコーダー・ハンドベル等)の奏法を習得しソロ及びアンサンブルの楽しみを体感する。また箏・三味線をととして日本音楽の特長をとらえる。		A		
	美術	美術を学習する意義と基礎技術向上に努める。		・用具用材に対する意識を持たせる。 ・全体指導及び個別指導を行いきめ細かな指導を行う。 ・自分の作品を大切にさせる。 ・作品提出の徹底を図る。 ・積極的に展覧会を鑑賞する。		B B B B	B	・鑑賞の能力をさらに高めるために、感じたことを文章にしたり、人前で話したりができるようにする。
		創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。		・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道の分野だけでなく音楽・書道の内容を取り入れて興味を持たせる。 ・作品を大切にすることを養う。		B B		
						A A		
	書道	古典学習の意義と基礎技術向上に努める。		・用具用材に対する意識づけを行う。 ・全体指導及び個別指導を行いきめ細かな指導を行う。 ・作品整理ノートを十分に活用する。 ・作品提出の徹底を図る。 ・積極的に展覧会を鑑賞する。		A A A A	A	・基本をしっかり身につけられるよう指導の徹底を図る。 ・創作による作品制作では、生徒の感性を引き出す取り組みをする。
		創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。		・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道分野だけでなく美術的内容を取り入れて興味を持たせる。 ・作品を大切にすることを養う。		A A		
						A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題		
教科	英語	基礎学力の向上定着を図る。	・小テスト、週末課題の実施により、学習の理解度を把握する。 ・学習内容の定着の為に質問の時間を設ける。	A B	A	・本年度はGTECの全生徒受験を予定していたため、英検受験に関する指導が出遅れてしまった。来年度は外部試験に関する計画を早期に行い、より多くの生徒が各種検定試験に挑戦できるよう指導する。		
		外国語の学習を通じて自国の文化等に対する理解を深める。	・テキストや副読本を読むことにより、文化の違いを理解させる。 ・ALTの先生の授業等を通じて、習慣の違いを学ぶ。	A A				
		自分の考えを積極的に発表しようとすることに努める。	・スピーチ・コンテストへの参加を積極的に促し、英語を話し理解しようとする態度を養成する。 ・各種検定試験(英検、TOEIC)への参加を促す。	A B				
		より高い目標に近づぐために努力させる。	・大学入試におけるリスニングテストへの対応のために授業の中にリスニング教材を位置付ける。	A				
	家庭	家庭生活を主体的に営む態度を育てる。	・生活に必要な知識と技術を習得させるための教材を検討し授業に生かす。 ・ホームプロジェクトの実践をさせる。	A A	A	・実習や体験学習を取り入れ生活に必要な知識と技術の習得に努める。		
		体験学習を取り入れる。	・実験実習を数多く導入し、まとめとしてのレポート提出をさせる。また、発表会を行う。 ・体験学習を取り入れる。	A A				
		資格に挑戦させる。	・将来の進路に結びついて資格を取らせる。	A				
	情報	情報機器の基本操作を身に付ける。	・受講者全員がブラインドタッチで入力できるようにする。 ・ネットワーク上のプリンタやドライブを利用できるようにする。	B A	B	・ネットワーク利用における情報モラルの更なる向上に努める。		
		基本的なソフトウェアの操作法を身に付ける。	・ワードプロセッサ、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション等のアプリケーションソフトウェアの操作ができるようにする。	B				
		ネットワークに参加し、利用する知識や技法を習得する。	・ネットワークを利用する上での注意事項や法律を知り、守れるようにする。 ・WEBブラウザを操作し、検索できるようにする。	B A				
	教務	各部、各学年及び各教科が効率的に機能するように連絡、調整を図る。	・生徒の欠席遅刻早退に関する情報の共有化を図る。	A	A	・生徒の実態と進路希望に合った教育課程を編成する。 ・教員の資質向上と授業改善の方策について検討する。		
		学校行事を精選し、その効率的運営を期するために、全職員の共通理解を図る。	・年間行事計画どおりの学校教育活動を行う。	A				
授業時数の確保を図る。		・行事等の能率的運営を図る。	A					
教育課程を円滑に推進する。		・教育課程の具体的検討、諸課題に関する研究の推進を図る。(IT活用の推進を含む) ・生徒の希望進路実現にかなう教育課程を編成する。	B B					
特別活動	部活動などを通じて、学校を活性化させる。	・運動部・文化部それぞれ3部以上で全国大会・国体・関東大会出場を目指す。 ・対外試合等を積極的に行い、技術の向上を図る。	B A	B	・文化祭の準備を計画的に進め、成功に導く。 ・HR活動を活性化する。			
	生徒会を中心にして、生徒間の連帯感を強め、生徒の意識高揚を図る。	・LHRを有効に活用して、クラス独自の活動を充実させる。	B					
		・生徒会活動の円滑な運営を支援する。	A					
		・各種委員会の活動を掌握し、学校行事や事業を活性化させるとともに、本校生としての意識を高める。	B					
		・あおい会館の管理運営を適切に行う。 ・生徒の利用しやすい購買部の運営につとめる。	B A					
生徒指導	生徒一人一人が生きる力の自己形成を図り、高校生としての自覚の養成に努める。	・高校生としての基本的な生活習慣、善悪の判断能力、規範意識を学校生活を通して育成する。 ・HRや授業及び個人面談等を通して、望ましい人間関係の構築に努める。	B A	B	・「三高の一員」としての意識の高揚を図り、校内外において、マナーやルールを守り、正しい判断と行動のできる生徒育成に努める。 ・いじめ等の防止に向け、情報モラルの啓発指導を継続的に行う。 ・教員間はもちろん、家庭との連携を図り、保護者の協力を得られる体制を構築する。			
	教職員間の共通理解を深め、共通の指導体制を構築する。	・家庭との連携や教職員間の連携など連絡指導態勢を速やかにすすめる。 ・年度始めにおける内規等の周知を図り、その後の指導を全職員のもと円滑にすすめる。 ・生徒の実態把握(被害・意識調査・アルバイト、交通関係等)につとめ、問題行動の防止に努める。	B A A					
	保護者との連携、情報交換による協力関係を構築する。	・新入時における保護者への本校規定等の説明を通して、協力の依頼に努める。 ・PTA総会及び各学年保護者会合等において、積極的に生徒の実情の報告、意見交換を通して、協力の依頼に努める。 ・生徒指導に関わる研修会等への参加及び保護者への協力依頼を通して、家庭教育力の向上に努める。 ・保護者へ定期的に学校の生活状況を知らせ、改善のための協力を依頼する。	A A B B					
	外部関係機関との連絡を密にし、不審者等の侵入防止に備えた危機管理の構築を図る。	・水戸署管内高校連絡協議会や青少年センター相談所等との連携を密にし、問題解決に速やかに対処する。 ・近隣小中高校との緊密な情報交換により、不審者等の把握に努め、問題の未然防止に努める。 ・学校周辺の住民との対話協力を図り、問題行動の改善や、不審者等の未然防止に努める。	A B B					
	生徒理解へのカウンセリングマインドの醸成と生徒支援の体制の充実を図る。	・カウンセリングマインド研修会等を通して、生徒理解を深め、生徒指導の改善に努める。 ・面接等を通して、生徒の状況把握に努め、効果的指導に努める。	A B					
	進路指導	生徒の進路希望の実現を図る。	・生徒の進路希望に応じた授業・課外を実施し、生徒の意欲を引き出す。 ・進路相談の充実を図る。			A B	B	・本校にある、進路に関して有効な資料やデジタルコンテンツ(ファインシステムや模試デジタルサービス等)をフルに活用して、全職員が協力しながら生徒への進路指導に当たる。
		学年・保護者との緊密な連携を図る。	・各学年に応じて、進路等における情報等を正確に提供し、保護者との信頼関係を深める。			A		
効果的な小論文指導を検討する。		・生徒の進路希望に合った指導方法を検討・調整する。	B					
進路に対する意識の高揚を図る。		・各学年に応じた進路行事(大学見学会、大学模擬授業、進路講演会)を実施し、生徒の意識を高める。 ・インターシップ(看護師体験など)を活用し、進路に対する意識を高める。	A A					
進路情報の充実を図る。		・インターネットを積極的に活用し、効果的かつ効率的な進路指導を図る。 ・進路の手引きを作成し、その効果的な活用を進める。 ・定期的な進路希望調査を実施し、生徒の実態把握に努める。	B A A					
保健(健康)管理・指導 教育相談	保健管理・指導を徹底し、健康保持増進を図る。	・定例の健康診断の他に、保健室入室生徒の観察指導の充実を図る。 ・「保健講話」、「保健だより」等による健康管理予防の啓発に努める。 ・校内美化に努め、清掃活動の一層の徹底を図る。	A B A	A	・生徒の実態に応じた、より良い支援のありかたについて引き続き検討する。			
	心的問題によりクラス等での通常の授業を受けることが困難な生徒に対し、クラス等への復帰支援を図る。	・教育相談委員会の役割と早期対応の一層の充実を図る。 ・これまでの事例を基に必要に応じ「別室登校規定」の修正を加える。	A A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
図書	図書館の利用を促進し、書籍の管理につとめる。	・図書館だより、新着図書案内を定期的に出し、情報提供をする。	A	A	・視覚機器の整備に努め、授業や学校行事等で活用しやすくする。
		・アンケート等で生徒・職員の購入希望をとる。	B		
	館内環境を整え、快適な読書空間と学習の場を提供する。	・未返却図書への催促を定期的に行い、図書利用の回転率を上げる。	B		
		・各教科の専門的意見を取り入れ、蔵書・各種資料の整理に努める。	A		
		・館内を常時清潔に保ち、読書や学習する環境を整える。	A		
	図書委員会の活性化を図る。	・居残り学習や長期休業中に開館し、生徒が利用できるようにする。	A		
視覚機器の整理と拡充に努める。	・図書購入・カウンター当番・読書会等に積極的に参加させる。	A			
放送委員会の活性化と定着を図る。	・現在あるものを整理し、古いものは新しい物と入れ替える。	B			
情報	校内LANの安全性を高めて利用の促進を図る。	・技術指導等のサービスを意欲的に行う。	C	A	・情報セキュリティをより一層強化する。
		・各種行事に伴う放送関係の仕事に積極的に関わらせる。	A		
	情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	・アナウンス講習会等に積極的に参加させる。	A		
	広報活動に協力する。	・セキュリティ対策を行い安全性を高める。	A		
	迅速・正確な成績処理に努める。	・共有しているプリンタやファイルの維持管理を行う。	A		
渉外	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。	・生徒の個人情報漏洩等の事故防止を図る。	A	A	・PTA総会の部活紹介が定着してきたので、早い段階で何部にするかを決めておく。 ・総会の午後の部の動きがわかるようにする。
		・ウェブページ(ホームページ)を活用する。	A		
	保護者との緊密な連携を図る。	・成績処理ソフトの改良を行う。	A		
音楽科	公開レッスンを実施し、生徒の技術向上と向上心の育成を図る。	・日程や授業参観のあり方を工夫する。	A	B	・他教科との連携を図りながら進路指導や生徒指導に努める。
		・PTA総会の内容を工夫し、効率的運営を図る。	A		
	校外活動としてのボランティア演奏の充実を図る。	・PTA各種委員会の活性化を図る。	B		
	音楽科にふさわしい進路指導の実現を目指す。	・保護者の意見要望を検討し、広報紙などを通してその対応を図る。	A		
家政科	生徒の技術向上のため、資格取得の充実に努める	・学校説明会の内容をより充実させ、生徒募集や広報活動に役立てる。	A	A	・専門的技術を習得するため個々の指導を徹底し、技術検定1級合格を目指す。 ・卒業後も専門知識を活かすことで、社会に貢献できる人材の育成を目指す。
		・ピアノ・声楽・管楽器・日本音楽の分野で年に3～4回実施し生徒一人一人に向上心を持たせる。	A		
	校外活動への積極的な参加を図る。	・各種コンクール(被服関係・食物関係)への参加を促す。	A		
	進路指導の充実に努める。	・家庭クラブとして老人介護施設の訪問や県家庭クラブ関係行事への参加をさせる。	A		
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・茨城大学教育学部附属幼稚園との交流などに積極的に参加させる。	A	B	・学習状況調査を計画的に実施し、家庭学習時間を確保するように促す。
		・遅刻の防止、時間厳守を徹底する。	A		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につける。	・机上の整理や清掃の徹底を行い、学習環境を整備する。	A		
		・授業開始時間の厳守、チャイムまでの着席を徹底する。	B		
		・予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B		
自己の可能性を探りながら卒業後の進路についての目的意識をもたせ、後悔しない文理選択および進路選択ができるように指導する。	・授業に対して積極的に取り組ませる。	B			
特別活動への積極的な参加を促す。	・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させる。	B			
2学年	集団の一員としての自覚を持たせ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・生徒との面談や保護者との面談を通して、適切な進路助言を行う。	A	B	・生活面での中だるみを防ぐ指導と、家庭学習で予習復習の学習習慣を確立する指導を心がける。
		・インターンシップや進路ガイダンス等を取り入れる。	B		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につけさせる。	・部活動・生徒会への積極的な参加を促す。	A		
		・授業に対して積極的に取り組ませる。	B		
自己の可能性を最大限に生かす進路選択ができるように指導する。	・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させる。	B			
特別活動への積極的な参加を促す。	・大学模擬授業や進路ガイダンス等を取り入れる。	A			
3学年	社会人として必要な常識やマナーを身につけさせる。	・部活動や学校行事の中心的存在として活動する。	B	B	・遅刻防止と、遅刻を繰り返す生徒の学校としての防止策と指導方法を検討する。
		・挨拶や言葉遣い、さらには自己表現力を身につけさせる。	B		
		・社会生活におけるマナーの大切さを理解させ実践させる。	B		
	目的に合った学力を身につけさせ、知識と思考力を共に養う。	・遅刻の防止や時間厳守を徹底させる。	B		
		・教材や指導法を工夫し、授業を大切に作る姿勢をさらに強く持たせる。	B		
3年間の集大成としての進路実現を、一人一人に達成させる。	・生徒一人一人が、各自の課題を自覚して学習するようにさせる。	B			
特別活動への積極的な参加を促す。	・問題集などの副教材を活用した発展的学習を行わせる。	A			
評価基準:A(達成できた)、B(だいたい達成できた)、C(達成できなかった)の3段階	・面談の機会を多くし、一人一人の状況を確実に把握し、情報提供する。	A			
	・早期・放課後・長期休業・休日等の課外授業を充実させる。	A			
	・面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。	A			
	・3年間の経験を生かして、リーダー・模範として活動する。	A			